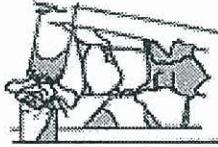
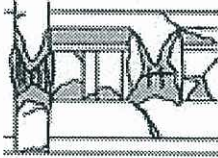

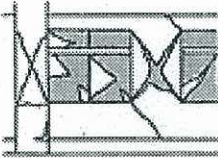
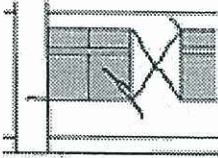


日本建築学会（1980）被災度区分

被害程度	内 容	イメージ	参考写真
倒壊	<p>①柱・耐力壁などが崩壊し、建物の全体または一部が倒壊した。</p> <p>②少なくとも倒壊した部分は取り壊す必要がある。</p>		
大破	<p>①柱が曲げまたはせん断により破壊し、建物の一部が円直荷重に対する耐力を失っている。</p> <p>②建物の全体または大部分にわたって柱・耐力壁にせん断破壊が生じ、水平耐力の大部分を失っている。</p> <p>③取り壊し、または大規模、全面的な補強工事を必要とする。</p>		 <p>柱せん断破壊</p>
中破	<p>①部分的に柱・耐力壁のせん断破壊または柱の曲げ圧縮破壊を起こしているが、建物全体としては鉛直耐力・水平耐力ともに著しい耐力の低下はない。（柱にせん断ひび割れ・曲げひび割れ、耐力壁にひび割れが見られ、非構造体に大きな損傷が見られる）</p> <p>②渡り廊下・避難階段・煙突・塔屋など、建物の附属部分の構造体に局所的な破壊が生じている。</p> <p>③部分的な構造体の補強または補修工事を必要とする。</p>		 <p>柱せん断破壊</p>
小破	<p>①構造体、特に梁・柱に肉眼で容易に見える曲げまたはせん断ひび割れを生じている。</p> <p>②ブロック・間仕切り・外壁など非構造材に破壊が生じている。</p> <p>③そのままでも構造耐力上支障はないが、建物使用上は非構造材の補修工事を必要とする。</p>		
軽微	<p>①構造体、特に壁に微小なひび割れがあるが、収縮ひび割れと区別が困難な程度。</p> <p>②非構造材にひび・剥離などがあるが、仕上げの補修のみで外観を復旧できる程度。</p>		
無被害	<p>①よく見れば若干のひび割れは見つかるかも知れないので、上記の軽微との区別は困難であるが、一応無被害と認定されたもの。</p>		